



スマナサーラ長老に「聖糸」を結んでいただく
ご希望の方は 5 月のブッダジャンティへご参加ください

平成 26 年 №49
夏おぼん号

あきばさん

発行所
秋葉山 新井寺
272-0144
千葉県市川市新井
1 丁目 9 の 1
でんわ 047-357-8319
FAX 047-357-8399
mail: info@shinseji.jp
http://www.shinseiji.jp
郵便振替 00150-2-282968
発行人 新井寺

お盆の季節に

当山住持

今年も、古来より日本人の国民的行事とされてきた「お盆」の季節がめぐってまいりました。私たちには皆等しく「ご先祖様」がいらつしやいます。このご先祖様の「心のふるさと」の行事が「お盆」といえましよう。

「お盆」には、どの家々にもそれぞれのご先祖様がお帰りになります。したがって、盆月に入りますと、皆様方は、ま心をこめてお仏壇やお墓のお掃除をしてにぎやかに飾りつけやお供えを行い、おもてなしの準備に親しまれます。そして、「お迎火」や「お迎え提灯」でご先祖様をお迎えし、この上ないおもてなしやご供養をつとめます。

「お盆」は、正しくは「盂蘭盆（うらぼん）」といい、「仏説盂蘭盆経（ぶつせつうらぼんきょう）」に由来します。「倒懸（とうけん）」と訳され、人間が逆さに吊るされた大変な苦しみを意味します。

昔、お釈迦様の十大弟子の一人、目連尊者（もくれんそんじや）が、餓鬼道（がきどう）に落ちて飢えに苦しんでいた亡き母をお救いするため、お釈迦様の法力を仰ぎ、この上ないおもてなしとご供養をつとめ、功德を積まれた行事です。

ご先祖様は、いま生かされている私たちの「いのちの根源」です。ご先祖様あつての私たちでございます。生かされている人間として、日頃ご無沙汰しがちのご先祖様に、感謝と報恩の気持ちをもち、精一杯のおもてなしとご供養を申し上げる。さらには、自分自身の心の修養にもつとめ、世のため・人のため・家族や自分自身のために、平和を祈念して仏道に親しみましようという、お釈迦様からの有難い慈恩行の行事なのです。どうぞ、ご精進ください。

目連尊者の孝順心と阿難尊者の利行 おせがき供養にこめられた願い



お盆は、当山の方丈様がご法話申し上げている目連尊者の「亡き母への孝順（こうじゅん）のご供養」に由来します。また、「お施餓鬼（おせがき・施食会・せじきえ）」は、阿難尊者（あなんそんじや）の餓鬼（がき）供養にはじまるといわれています。

ある日、阿難尊者が、林のなかで坐禅をしていると、「焰口餓鬼（えんくがき）」という「餓鬼」があらわれました。やせ衰えてのどは細く、髪の毛は逆立っていました。さらに、名前の通り、口からは火をはいていました。とても恐ろしく醜い姿をしています。その餓鬼が、阿難尊者にこう言います。「あなたは三日のうち死ぬ。そして、『餓鬼』に生まれかわるであろう」。大変驚いた阿難尊者は、救われる方法をたずねます。焰口餓鬼の答えは、「苦しんでいるすべての餓鬼に食べものや飲みものを施し、仏法僧の三宝に供養しなさい。そうすれば、あなたのいのちも伸び、自分たちのよう

な餓鬼も苦しみから救われるであろう」ということでした。

あらゆるすべての餓鬼を供養するということとは、とても大変なことです。そこで、阿難尊者はお釈迦さまに相談します。お釈迦さまは、「無量威徳自在光明加持飲食陀羅尼（むりょういとうくじざいこうみょうかじおんじきだらに）」というお経と「お経をとえながら、ひとにぎりの食べものを供えれば、その食べものは無量の食べものや飲みものとなって、あらゆるすべての餓鬼たちを供養することができる」ということを教えてくださいました。阿難尊者は、お釈迦さまが教えてくださいくださった通りに供養をつとめました。その供養のおかげで、餓鬼たちも救われ、阿難尊者自身も、長生きをすることができました。

このお話が元になってつとめられているのが、現在の「お施餓鬼」の法要です。お施餓鬼の法要では、季節の野菜やくだもの、五色の幡をたてた「餓鬼飯（がきめし）」といわれる山盛りのごはんやお膳などが、ところ狭しとお供えされます。また、中央には「三界萬霊（さんがいばんれい）」と書かれた大きなお位牌がおまつ

りされます。「三界萬霊」とは、あらゆる精霊さま・仏さまのことです。自分のご先祖さまだけ、自分の大事な仏さまだけと、垣根をつくるのではなく、「有縁無縁（うえんむえん）三界萬霊」、縁のある人も縁のない人も、すべての仏さま・精霊さまへのご供養がお施餓鬼の法要なのです。

阿難尊者のお話のなかで、大切なことは、阿難尊者だけが救われたのではなく、苦しむすべての餓鬼たちも、ともに救われたということです。

存亡齊しく導き

そんなもうひとしくみちびき

怨親普く利せん

おんしん あまねくりせん

という教えがあります。「存亡」とは、いま・ここに生きる、生きとし生けるもの、いまは亡きもの。みんなを正しい仏さまの教えの道へと導くということ。「怨親」とは、怨みのあるもの、親しきもの。誰彼と区別することなく、みんなともに、仏さまの道を成じ、仏さまのめぐみが向けられますように。このことが、お施餓鬼供養のもうひとつの願いともいえましよう。

「餓鬼」は自分の外にいないのではなく、実は、自分のなかにいるのです。自分さえよければよい。人のことは知らんぷり。「ありがとう」の気持ちがない。それが、わたしたちのなかにいる「餓鬼」です。自分のことばかりを考えてはいないだろうか。人さまからいただいたもの・親切を「あたりまえ」だと思っははいないだろうか。ものにも・人にも・心にも、感謝の気持ちを忘れてはいないだろうか。そう自分自身にたずねてみる。感謝の気持ちを大切に。自分のことは後まわし「どうぞお先に」と人さまを思いやる気持ちを大切に。自分や自分の大切な人だけではなく、みんなのしあわせを願う。それが、「存亡齊しく導き、怨親普く利せん」ということであろうと思えます。そして、それが、いまいのちのある人も・いまは亡き人も、どんな人もみんな、仏さまの道を行じ、成就していききたいというお施餓鬼供養の願いへの実践につながっていくのではないかと思います。

(副住職しるす)

愛知専門尼僧堂と

伊勢神宮参拝の旅のご案内

昨年は、大本山永平寺をはじめ、北陸の曹洞宗にゆかりの深い寺院をお参りさせていただきました。本年は、当山の副住職が修行をさせていただきました「愛知専門尼僧堂」と昨年「式年遷宮（しきねんせんぐう）」が行われた「伊勢神宮」を参拝することになりました。

尼僧堂は女性の修行道場です。尼僧堂では、青山俊董（あおやましゅんとう）堂長老師のご導師のもと、修行僧の皆さんにご先祖さまの追善供養をおつとめいただきます。また、青山老師のご講話も拝聴する予定です。

今年も、皆様と身心ともに充実した旅ができますことを楽しみにしております。

愛知専門尼僧堂と

伊勢神宮参拝の旅

十月三日（金）～ 四日（土）

一泊二日の全行程バスの旅です
旅費 三万五千円

◎ 詳細は 別紙をご参照ください。

◎ ご不明な点は、お気軽におたずねください。

おはなの おはなし

「小菊」と「スプレー菊」

愛知県産
スプレー菊「サバ」

前回の「大菊」のお話につき、このお盆号では、「小菊」と「スプレー菊」についてお話したいと思えます。

新井寺の大黒さんがこのお寺に嫁いだ頃は、ご本堂にお供えされるお花といえ、大菊と小菊がほとんどであったそうです。いつの頃からか、小菊のようだけれども、小菊よりも花が大きい「スプレー菊」が登場するようになったといえます。

小菊は、古くから日本にある花ですが、スプレー菊は一九七〇年代に西洋で普及した花といわれています。

小菊もスプレー菊も、枝分かれして小さなお花を咲かせますが、その違いは「価格と気品深さ」です。ボサボサとポリウムがあり、比較的安価なのが小菊、総じて小菊よりも花が大きく、

上品な姿で、大菊と同じくらしい価格のものがスプレー菊です。日もちは産地によりますが、国産のものであれば、小菊もスプレー菊も、同じくらい日もちのよい花です。

水揚げの方法は、小菊もスプレー菊も同じで、余分な葉を取り除き、手で折り、たつぷりの水の中にいれ、風にあたらないところにおくことです。

小菊は、つぼみから開花させるのにも経験と技が必要なお花です。たつぷりの水と温かな環境がなければ、きれいに咲きません。寒い冬の時期や暑い夏は、つぼみで終わってしまうこともあるので、ある程度開いたものを購入することをおすすめします。

花屋秋葉山の仏花のイチオシはスプレー菊です。スプレー菊は国産と輸入のものがありますが、ご自宅のお仏壇やお祝いには国産(きれい・日もちがよい・ポリウムは少ない)を、お墓には輸入(形がかわいい・葉はあまり日もちしない)が花はもつ・ポリウムがある)をおすすめします。スプレー菊のなかに季節の花が顔を出している花束はポリウムあり、季節感ありでお墓のお花に最適だと思えます。是非、ご利用くださいませ。

花屋 秋葉山 店主しるす

編集後記

脅威的に日本列島を襲った台風八号に、大自然に人間はとうていかなわなないということ再認識させられました。

今夏、ひと月間の修行道場での参学の機会をいただきました。行学(実践と学問)ともに、たくさんのことを学ばせていただきました。そのなかで、最も大きな学びは、自分自身の疎学さと菩提心の貪しさに気づいたことであつたように思います。尼僧堂をおいとまして十年、勉強や経験を積んできたつもりでしたが、それは万分の一にも満たないこと、そして、心得違いをすると、修行の妨げになるということに気づかせていただきました。そのことが、根拠のない自信を生じさせ、自分勝手な仏道へと導いていくと感じたからです。

毫釐(ごうり)も差あれば、天地はるかに隔(へだ)たり、違順(いじゅん)わずかに起れば、紛然(ふんねん)として心(しん)を失す。 普勸坐禅儀

この機会がなければ、わたしの修行は、退転し、脚下を見失っていたかもしれせん。このご縁に感謝しています。

暑さきびしきみぎり、どうぞ、ご自愛くださいませ。

編集小子 合掌

